TAKIGINOH

能「羽衣」

狂言「二人大名」

半能「石橋 連獅子」

弘前城 薪能

あらすじ

◉能「羽衣」

のどかな春の三保の松原で、漁夫の白龍は美しい衣を見つけ持ち帰ろうとします。すると天女が現われ、自分のものだから返してほしいと頼みます。一度は断る白龍でしたが、羽衣がなくては天に帰ることができないと嘆き悲しむ天女の様子を見て、天上の舞を見せてくれることを条件に返すことにします。天女は喜び、羽衣を身にまとい月の世界の舞を見せます。そして国中に宝を降らせながら冨士の高嶺へと舞い上がり、やがて霞に紛れて消えてきます。
光り輝く春の海と青々とした松原、遠くには雪を頂いた富士山、その中を穢れのない天女が天に昇ってゆく、一幅の絵のような美しい名作です。

【舞台進行】

- 後見が、松の立木に羽衣をかけます。
- 釣竿を担げたワキ（白龍）が登場し、春の三保の松原の美しさを讃えます。
- 白龍は、空から花が降り音楽が聞こえ、どこからか良い香りが漂ってくるので不思議に思っていると、松の枝に掛っている見たことのない美しい衣を見つけます。
  白龍は家宝にしようとさっそく衣を持ち帰ろうとします。
- そこへシテ（天女）が呼び掛けて登場します。白龍に羽衣を返してくれるように頼みますが、まったく聞き入れません。天女は嘆き悲しみ、天上界をなつかしみます。
- 白龍は天女のあまりにうち沈んだ様子を哀れに思い、もしも天上の舞を見せてくれるなら羽衣を返そうと言います。喜んだ天女は、羽衣がないと舞うことができないので、まず羽衣を返してほしいと言います。白龍が、羽衣を返せばそのまま天に帰ってしまうのではないかと疑うと、天女は「いや疑ひは人間にあり、天に偽りなきものを」と言い、白龍は自分を恥じて羽衣を返します。
- 天女は羽衣を着け、後に駿河舞として伝えられるようになった舞を舞い始めます。月世界の天女の舞によって地上はまるで極楽世界のようになり、国土が繁栄するようにと数々の宝を降らせた天女は、やがて富士の高嶺へと舞い上がり、やがて霞の中に消え失せます。

◉狂言「二人大名」

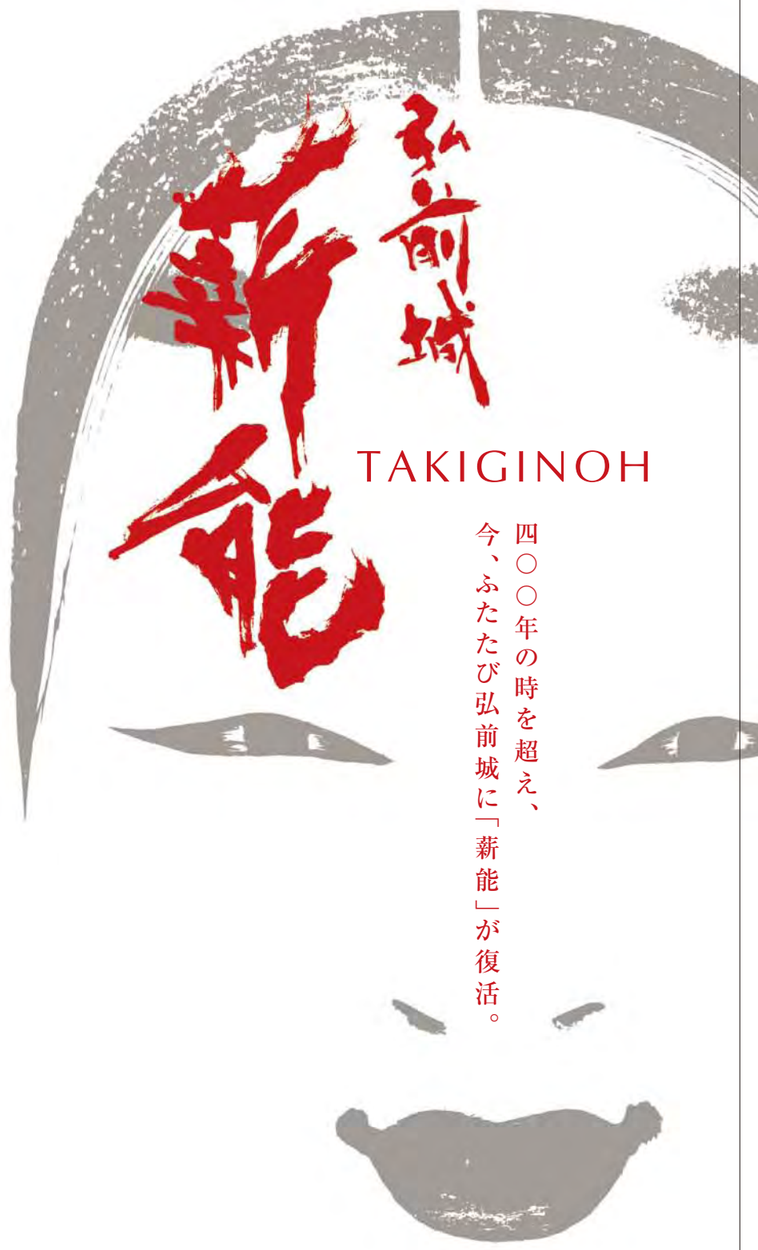
二人の大名が一緒に外出することになりますが、どちらも供がいないので自分で太刀を持って出かけることになります。途中、道連れになった男を脅して供にさせ、むりやり太刀を持たせます。しかし、だんだん腹立たしくなってきた男は隙をみて太刀を抜き、逆に二人の大名の小刀を取り上げます。その上、犬のかみ合う真似をさせたり、起き上がり小法師の真似をさせてさんざんになぶります。中世の下剋上の世相を反映するような作品です。曲中には物真似や小歌など様々な中世の遊興が登場します。コンビネーションの妙とともにお楽しみ下さい。

◉半能「石橋 連獅子」

中国に渡り仏教遺跡を巡礼している寂昭法師が、清涼山へとやってきます。
目前には足がすくむほどの深い谷に、幅1尺足らず長さ3丈あまりの苔むした橋がかかっています。寂昭法師が渡ろうとするとひとりの童子が現われ、人間業では渡れないと止め、橋の向こうは文珠菩薩の浄土であるからやがて起きる奇瑞を待つよう告げて消えます。すると文珠菩薩の使者の獅子が現われ、咲き乱れた牡丹の花と戯れながら千秋万歳を祝います。
今回は、築城四百年をお祝いし後半部分の祝言の獅子舞を半能として上演致します。能の中で最も勇壮にして豪華な傑作です。

【舞台進行】

- 後見が、紅白の牡丹の立木がついた一畳台を二つ、舞台正面に並べて置きます。
- ワキ（寂昭法師）が登場し、かつて大江の定基といわれた寂昭法師であると名のり、唐に渡り、あちらこちらの仏寺や霊地を拝みめぐり清涼山に到着したと言います。
  寂昭法師はそこで文殊の浄土へと続く石橋を見つけます。
- すると親子の獅子が荘重な囃子によって登場する。獅子は牡丹の花に戯れながら千秋万歳を寿いでめでたく舞納めます。



HIROSAKI 400 2011 私四百 恋へよ津軽 弘前城築城400年祭

弘前城薪能

平成二十三年六月二十五日(土)十八時開演

能

羽衣

シテ(天女) 粟谷 能夫
ワキ(漁夫白龍) 森 常好

後見 粟谷 浩之
佐々木多門

地謡 友枝 真也
粟谷 充雄
金子敬一郎
大島 輝久
友枝 雄人
中村 邦生
友枝 昭世
長島 茂

大鼓 柿原 光博
小鼓 鵜澤洋太郎
太鼓 助川 治
笛 槻宅 聡

〈火入れ式〉

狂言

二人大名

シテ(通行人) 野村 万作
アド(大名) 高野 和憲
アド(大名) 深田 博治

後見 岡 聡史

半能

石橋 連獅子

ツレ(子獅子) 狩野 了一
シテ(親獅子) 塩津 哲生
ワキ(寂昭法師) 森 常好

後見 友枝 昭世
友枝 真也

地謡 大島 輝久
粟谷 充雄
粟谷 浩之
佐々木多門
金子敬一郎
長島 茂
中村 邦生
友枝 雄人

大鼓 柿原 光博
小鼓 鵜澤洋太郎
太鼓 助川 治
笛 槻宅 聡

働キ 塩津 圭介
佐藤 寛泰
佐藤 陽

◉能「羽衣」
粟谷 能夫(あわや よしお)

1949年生まれ、東京在住。喜多流シテ方。故粟谷新太郎の長男。父および故喜多流シテ方十五世宗家喜多実に師事。『定家』『卒都婆小町』『木賊』などを披く。重要無形文化財総合指定保持者。粟谷能の会を主宰。三鈷の会同人。

◉能「羽衣」地頭
友枝 昭世(ともえだ あきよ)

1940年生まれ、東京在住。喜多流シテ方。故友枝喜久夫の長男。父および故喜多流シテ方十五世宗家喜多実に師事。『卒都婆小町』『鸚鵡小町』『伯母捨』などを披く。芸術選奨文部大臣賞、観世寿夫記念法政大学能楽賞、紫綬褒章、日本芸術院賞などを受賞。2008年重要無形文化財各個指定(人間国宝)認定。

◉狂言「二人大名」
野村 万作(のむら まんさく)

1931年生まれ、東京在住。和泉流狂言方。故六世野村万蔵の次男。祖父、故初世野村萬斎及び父に師事。狂言の技術の粋が尽くされる秘曲『釣狐』に長年取り組み、その演技で芸術祭大賞を受賞。その他、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、紫綬褒章、坪内逍遥大賞、朝日賞などを受賞。2007年重要無形文化財各個指定(人間国宝)認定。

◉半能「石橋 連獅子」
塩津 哲生(しおつ あきお)

1945年生まれ、東京在住。喜多流シテ方。故塩津清人の長男。父および故喜多流シテ方十五世宗家喜多実に師事。
'94年から流儀内後進の指導を一手に引き受けている。流儀の奥伝である『石橋・三ツ臺』により芸術選奨文部科学大臣賞受章。他に観世寿夫記念法政大学能楽賞、紫綬褒章などを受賞。重要無形文化財総合指定保持者。

HIROSAKI 400 私四百 恋へよ津軽
2011 弘前城築城400年祭

◉主催／弘前城築城四〇〇年祭実行委員会
◉協力／国立大学法人弘前大学・さくら野百貨店弘前店・ルネスアベニュー
観光物産館アスパム
◉お問い合わせ／弘前城薪能運営事務局 ☎0172-39-6006 RAB青森放送 弘前支社内